

公告

独立行政法人国際協力機構契約事務取扱細則（平成15年細則(調)第8号）（以下、「細則」という。）に基づき下記のとおり特定者以外に参加意思を有し、応募資格を満たす者の有無を確認する公示を行います。

2025年2月3日

独立行政法人国際協力機構
横浜センター 契約担当役 所長

調達件名	2025-2027年度課題別研修「港湾開発・計画（港湾技術者のための）」に係る研修委託契約
業務内容	別紙1「業務仕様書」による
契約履行期間（予定）	2025年4月1日（火）から2025年12月26日（金）まで （特段の問題がない限り、2026年度、2027年度も単年度ごとに契約する。）
選定方法	参加意思確認公募（詳細は別紙1「業務仕様書」による）
特定者	一般財団法人 国際臨海開発研究センター
応募資格	公示日において有効である全省庁統一資格を有すること。又は、当機構の審査により同等の資格を有すると認められた者。 その他、細則参加資格及び業務仕様書に記載の応募要件に該当すること
参加意思確認書提出期限	2025年2月14日（金）12:00（正午）まで
契約担当部署	横浜センター 研修業務課 電話番号：045-663-3221 メールアドレス：yicctt1@jica.go.jp
その他	その他詳細は別紙1「業務仕様書」による
独立行政法人国際協力機構契約事務取扱細則参加資格	応募をもって、以下のいずれにも該当しないことに誓約したものとみなします。 (1) 当該契約を締結する能力を有しない者 (2) 破産手続き開始の決定を受けて復権を得ない者 (3) 独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程(総)第25号）第2条第1項の各号に掲げる者 (4) 独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程（平

	成 20 年規程(調)第 42 号) に基づく契約競争参加資格停止措置を受けている者
情報の公表について	<p>本競争への参加を以て、選定結果情報、契約情報（法人、個人、団体名（共同企業体を結成する場合は共同企業体の構成員も同様）を含む）の公表に同意したものとみなします。</p> <p>機構の契約に関する情報の公表の基本方針は下記ウェブサイトの通りです。</p> <p>「公共調達に適正化に係る契約情報の公表について」 https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/corporate.html</p>

以 上

2025-2027年度課題別研修「港湾開発・計画（港湾技術者のための）」 に係る参加意思確認公募について

独立行政法人国際協力機構横浜センター（以下、「JICA 横浜」という。）は、以下の業務について、参加意思確認書の提出を公募します。

本業務は、開発途上国から研修員として日本に招き、港湾の開発・計画に必要な知識や技術に関する研修を行うものです。

本業務の遂行にあたっては、一般財団法人国際臨海開発研究センター（以下、「特定者」という。）を契約の相手先として、JICA 所定の基準に基づき経費を積算したうえで契約を締結する予定です。

特定者は、2022-2024年度、課題別研修「港湾開発・計画（港湾技術者のための）」コースを受注した実績があり、また「港湾維持管理計画」コース、「港湾戦略運営」コース等、港湾分野に関わる課題別研修を広く受注、実施してきた実績を有しています。日本国内の研修事業のみならず、開発途上国においても多くの技術協力プロジェクトを受注してきました。カンボジア国「シハヌークビル港コンテナターミナル経営・技術向上プロジェクト」、インド国「チェンナイ港運営管理改善事業」に係る技術支援、パプアニューギニア国「運輸省港湾政策及び行政能力向上プロジェクト」等、開発途上国のニーズに応じた技術指導を行ってきた経験を有しています。

特定者は、本研修事業で国土交通省をはじめとした政策面及び技術面から高い技術と知見を有する団体及び講師等国内リソースとのネットワークを構築していることに加え、対象となる国々が直面する当該分野の課題を理解し、上記案件を含め現地で具体的な課題の解決にも取り組んでいます。これらの知見により、研修目標に沿った研修企画をはじめとして、対象国の状況に応じた柔軟な研修内容の検討及び運営が可能です。以上より、特定者は JICA 横浜所管地域において、港湾開発・計画の研修を企画する能力を備えており、以下の「2 応募資格」を満たし、本件業務を適切に実施し得る要件を備えています。特定者以外の者で応募資格を満たし、本業務の実施を希望する者の有無を確認する目的で、参加意思確認書の提出を招請する公募を実施します。

1 業務内容

- (1) 業務名：2025-2027年度課題別研修「港湾開発・計画（港湾技術者のための）」に係る研修委託契約
- (2) 案件概要：別紙2「研修委託業務概要」のとおり
- (3) 実施期間（2025年度）：
本邦研修：2025年5月19日～2025年7月2日（予定）

(4) 契約履行期間（2025 年度）：

2025 年 4 月 1 日から 2025 年 12 月 26 日まで（予定）

※2026 年度、2027 年度の実施時期未定。契約履行期間には、事前準備期間及び事後整理期間を含む。

2 応募資格

(1) 基本的要件：

- 1) 公示日において、令和 5・6・7 年度全省庁統一資格の競争参加資格（以下、「全省庁統一資格」という。）を有する者。
- 2) 会社更生法（平成 14 年法律第 154 号）又は民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計画が発効していない者は、参加意思確認書を提出する資格がありません。
- 3) 当機構から「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」（平成 20 年 10 月 1 日規程（調）第 42 号）に基づく契約競争参加資格停止措置を受けていないこと。具体的には以下のとおり扱います。
 - ア. 資格停止期間中に提出された参加意思確認書は、無効とします。
 - イ. 資格停止期間中に公示され、参加意思確認書の提出締切日が資格停止期間終了後の案件については、参加意思確認書を受け付けます。
- 4) 競争から反社会的勢力を排除するため、参加意思確認書を提出しようとする者（以下、「提出者」という。）は、以下のいずれにも該当しないこと、及び当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約していただきます。具体的には、参加意思確認書の提出をもって、誓約したものとします。

なお、当該誓約事項による誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、参加資格を無効とします。

- ア. 提出者の役員等（提出者が個人である場合にはその者を、提出者が法人である場合にはその役員をいう。以下同じ。）が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等（各用語の意義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成 24 年規程（総）第 25 号）に規定するところにより、これらに準ずる者又はその構成員を含む。以下、「反社会的勢力」という。）である。
- イ. 役員等が暴力団員でなくなった日から 5 年を経過しないものである。
- ウ. 反社会的勢力が提出者の経営に実質的に関与している。
- エ. 提出者又は提出者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
- オ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給

- し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
- カ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
- キ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
- ク. その他、提出者が東京都暴力団排除条例（平成 23 年東京都条例第 54 号）又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。
- 5) 法人として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）（平成 26 年 12 月 11 日特定個人情報保護委員会）」に基づき、個人情報及び特定個人情報等（※1）を適切に管理できる体制を以下のとおり整えていること。
- （中小規模事業者（※2）については、「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）」別添「特定個人情報に関する安全管理措置」に規定する特例的な対応方法に従った配慮がなされていること。）
- ア. 個人情報及び特定個人情報等の適正な取扱いや安全管理措置に関する基本方針や規程類を整備している。
- イ. 個人情報及び特定個人情報等の保護に関する管理責任者や個人番号関係事務取扱担当者等、個人情報及び特定個人情報等の保護のための組織体制を整備している。
- ウ. 個人情報及び特定個人情報等の漏えい、滅失、き損の防止その他の個人情報及び特定個人情報等の適切な管理のために必要な安全管理措置を実施している。
- エ. 個人情報又は特定個人情報等の漏えい等の事案の発生又は兆候を把握した場合に、適切かつ迅速に対応するための体制を整備している。

（※1）特定個人情報等とは個人番号（マイナンバー）及び個人番号をその内容に含む個人情報をいう。

（※2）「中小規模事業者」とは、事業者のうち従業員の数が 100 人以下の事業者であって、次に掲げる事業者を除く事業者をいう。

- ・ 個人番号利用事務実施者
- ・ 委託に基づいて個人番号関係事務又は個人番号利用事務を業務として行う事業者
- ・ 金融分野（金融庁作成の「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」第 1 条第 1 項に定義される金融分野）の事業者

- ・ 個人情報取扱事業者

(2) その他の要件：

- 1) 案件受託上の条件として、2025年度案件を第1回目として受託し、2027年度まで計3回、本案件を受託可能であること。なお、2025年度案件を受託した者とは、業務実施状況に特段の問題がない限り、2027年度案件まで継続契約を行う予定です（ただし、研修対象国の状況等予期しない外部条件の変化が生じた場合を除く）。また、契約は、年度毎に、業務量、価格等について見直しを行なったうえで締結します。

3 手続きのスケジュール

(1) 参加意思 確認書の提出	提出期間	2025年2月14日(金) 12:00(正午)
	提出場所	JICA 横浜 研修業務課
	提出書類	参加意思確認書、応募要件に該当する全省庁統一資格を有していない者は、参加意思確認書に記載の提出資料一式(写し可)
	提出書類	参加意思確認書(別紙3)、同確認書で提出を求められている資料等
	提出方法	メール又は郵送
(2) 審査結果 の通知	通知日	2025年2月25日(火)
	通知方法	メール
(3) 審査結果 についての理由 請求	請求場所	JICA 横浜 研修業務課
	請求方法	メール又は郵送
	請求締切日	2025年3月3日(月)
	回答予定日	2025年3月18日(火)
	回答方法	メール

4 その他

- (1) 提出期限を過ぎて提出された参加意思確認書等の提出書類は無効とします。
- (2) 参加意思確認書等の提出書類の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とします。
- (3) 提出された参加意思確認書等は返却しません。
- (4) 機構は提出された参加意思確認書等の提出書類を、その審査の目的以外に提出者に無断で使用しません。
- (5) 提出期限以降における参加意思確認書等の提出書類の差し替え、及び再提出は認めません。
- (6) 審査の結果、応募要件を満たさなかった者は、書面によりその理由について説明を求めることができます。(上記3(3)を参照ください。)

- (7) 公募の結果、応募要件を満たす者がいない場合は、特定者との随意契約手続きに移行します。また、応募要件を満たす者がいる場合は、指名による企画競争若しくは指名競争入札を行います。その場合の手続き詳細は、応募要件を満たす者及び特定者に対して連絡します。
- (8) 予算その他機構の事情により、当該手続きを中止する場合があります。
- (9) 手続きにおいて使用する言語及び通貨：日本語及び日本通貨に限ります。
- (10) 契約保証金：免除します。
- (11) 共同企業体：共同企業体の結成を認めません。

以 上

2025-2027 年度課題別研修「港湾開発・計画（港湾技術者のための）」
研修委託契約 業務概要

以下の記載は、2025 年度に係るものである。2026 年度、2027 年度については、別紙1「業務仕様書」2. 応募要件（2）その他の要件1）を参照。

1. 研修コース概要

(1) 研修コース名：2025 年度 課題別研修「港湾開発・計画（港湾技術者のための）」

(2) 技術研修期間

【本邦研修】2025 年 5 月 19 日から 2025 年 7 月 2 日（予定）

(3) 研修員（予定）

1) 定員：9 名

2) 研修対象国：バングラデッシュ、エジプト、アンゴラ、カンボジア、サモア、メキシコ、タンザニア、セントビンセント、モーリシャス

3) 研修対象組織・対象者：現在港湾に関する地球規模の問題解決（維持管理・環境・防災等）と持続可能な取り組みの課題を職務内容とする若手職員、または港湾分野において、3年以上の経験を有する港湾技術者大学の工学部卒業・同等の学力を有する政府機関職員。

(4) 研修使用言語：英語

(5) 研修の背景・目的：

港湾の開発整備は、産業発展を中心とした経済成長に不可欠なものであり、開発途上国の経済開発協力の中でも最優先に取り組むべき社会基盤整備である。これまでの港湾の開発整備に必要とされた技術は、主に自然を克服し港湾施設を整備する工学的技術が中心であった。しかし、国際海運におけるコンテナ輸送が新世紀に入っても勢いが衰えることなく増加してきており、さらなる機械化・自動化が効率と生産性の向上のために日々模索されている。他、ITの発展により物流の事務手続きが電子化・効率化され、自然条件を中心に決定されてきた港湾の形状や施設のライフサイクルにも大きな影響を与えることになった。JICAにおいては、円借款、無償資金協力、技術協力の3スキームを用いて、コンテナターミナルの拡張事業、港湾運営の効率化、港湾施設・機材の維持管理能力向上、港湾 EDI の導入などに取り組んでいる。

本研修は、これら JICA の港湾分野における取組の一助をなすもの、及び取組の効果発現に寄与するものである。

(6) 案件目標：港湾開発及び計画に係る諸問題に対し、総合的な知見を得、港湾計画に関する視察や演習を通して学び、各国が抱える諸問題に対応したアクションプランを発表し、研修員が対処方針を自ら考え作成することで、各国関係機関の港湾開発・計画策定に係る能力を向上させる。

(7) 単元目標（アウトプット）：

ア. 自国の港湾整備に関する課題について予備的に整理する。

イ. 港湾整備に必要な基礎技術的知識を習得し説明できる。

ウ. 臨海部の産業立地と一体となった港湾の開発・計画手法を習得し、計画案が予備的に策定する。

エ. 世界の港湾を取り巻く情勢について把握し、説明出来る。

オ. 日本企業の港湾建設技術における国際的優位性を理解する。

カ. 港湾維持管理に関する地球的規模の問題と持続可能な取組についてアクションプランを策定する。

(8) 研修内容

1) 研修項目

ア. 事前活動：インセプションレポート

イ. 基礎技術：

①海洋・水工技術に関する講義・実習

②地盤・構造技術に関する講義・実習

③施工・制御技術に関する講義・実習

ウ. 開発・計画：

①港湾政策の講義

②港湾計画、設計、基準の講義・実習・作成

③港湾の情報化の講義・事例視察

④臨海部の産業立地と一体となった港湾開発手法及び管理運営手法の講義・事例視察

エ. 世界の港湾情勢

①グローバル化

②港湾に関わる国際条約

オ. 維持管理・環境・防災等

①港湾施設の維持管理・有効活用の講義・実習・事例視察

②環境保全、環境影響評価の講義・実習・事例視察

③港湾施設の災害への取組の講義

カ. アクションプランの作成・発表

2) 研修方法

- ア. 講義: テキスト・レジュメ等を準備し、必要に応じて視聴覚教材を利用して、研修員の理解を高めるよう工夫して下さい。また、研修員相互の意見交換やディスカッションへの参加を促し、参加型の講義とするよう留意して下さい。遠隔研修の場合は、受講環境、インターネット環境、必要機材なども確認の上、研修員によるアクセスが容易かつ自己学習しやすい教材を作成して下さい。また、可能な限り研修員の自習進捗状況を確認し、受講漏れのないよう管理してください。講義については、質問対応等可能な限りフォロー体制を構築下さい。
- イ. 演習・実験/実習: 講義で得られた知見をもとに関係者との意見交換を通じて、研修員が事業実施において参考となる知識・技術を習得できるように努めて下さい。
- ウ. 視察・研修旅行: 「演習・実験/実習」に同じ。
- エ. レポートの作成・発表: 各レポートの作成・発表にあたっては、各研修員の問題意識について研修員・日本側関係者間で相互理解を深めるよう配慮し、あわせて帰国後の問題解決能力を高めるよう努めて下さい。

3) 当機構が実施するプログラム

- ア. JICA ブリーフィング
来日時事務手続き、滞在諸手当の支給手続き等についての説明を、通常来日の翌日に実施する。
- イ. ジェネラル・オリエンテーション
技術研修に先立って、日本滞在中の必要知識として、日本の政治・経済、歴史、社会制度等についてオリエンテーションを行う。実施有無および実施内容は全体日程を加味して考慮します。
- ウ. 評価会及び閉講式
本邦研修についての研修場所は、実習、見学・研修旅行以外は、主として JICA 横浜近隣での実施を想定しています。

2. 委託業務の内容

(1) 契約履行期間 (予定)

2025 年 4 月 1 日から 2025 年 12 月 26 日

(この期間には、事前準備・事後整理期間を含みます)

(2) 業務の概要

研修員に対し、研修目標達成のために港湾維持管理について以下の内容の

講義、実習、視察、討論を行う。

1. インセプションレポート作成・発表

2. 講義・演習等

ア. 基礎技術：

- ①海洋・水工技術に関する講義・実習
- ②地盤・構造技術に関する講義・実習
- ③施工・制御技術に関する講義・実習

イ. 開発・計画：

- ①港湾政策の講義
- ②港湾計画、設計、基準の講義・実習・作成
- ③港湾の情報化の講義・事例視察
- ④臨海部の産業立地と一体となった港湾開発手法及び管理運営手法の講義・事例視察

ウ. 世界の港湾情勢

- ①グローバル化
- ②港湾に関わる国際条約

エ. 維持管理・環境・防災等

- ①港湾施設の維持管理・有効活用の講義・実習・事例視察
- ②環境保全、環境影響評価の講義・実習・事例視察
- ③港湾施設の災害への取組の講義

3. アクションプランの作成・発表

(3) 詳細

- 1) 研修日程調整及び研修詳細計画書の様式を用いた日程案の作成
- 2) 講師・見学先・実習先の選定、確保
- 3) 講義依頼、講師派遣等依頼及び教材作成依頼文書の作成・発出
- 4) 見学依頼文書又は同行依頼文書の作成・送付
- 5) 研修実施に必要な経費の見積り及び経費処理
- 6) 研修実施要領の確認（評価項目・評価基準の策定）
- 7) コース評価要領の作成
- 8) 教材の複製や翻訳についての適法利用の確認
- 9) 講師・見学先への連絡・確認
- 10) JICA、省庁、他関係先等との調整・確認
- 11) 講義室・会場等の手配
- 12) 使用資機材の手配
- 13) 講義テキスト、映像教材、資機材、参考資料の準備（使用言語への翻訳・印刷製本含む）・確認（著作権処理を含む）

- 14) 講師への参考資料（テキスト等）の送付
- 15) 講師からの原稿等の取付、配布等の調整、教材利用許諾範囲の確認及び JICA への報告
- 16) 講師・見学先への手配結果の報告
- 17) 講義等実施時の講師への対応
- 18) 講義テキスト、映像教材、参考資料の CD-ROM 化及び研修員への配布（使用許諾確認を含む）
- 19) 研修監理員との連絡調整
- 20) プログラム・オリエンテーションの実施
- 21) 研修の運営管理とモニタリング
- 22) 見学先への引率
- 23) 研修員の技術レベルの把握（個別面接の実施等）
- 24) 各種発表会の実施
- 25) 研修員作成の技術レポート等の分析・評価、作成指導
- 26) 研修員からの技術的質問への回答、理解促進
- 27) 研修旅行同行依頼文書の作成・発信
- 28) 評価会、技術討論会（各種レポート発表会含む）の出席、実施補佐
- 29) 開・閉講式への出席、実施補佐
- 30) 研修監理員からの報告聴取
- 31) 講義・見学謝金等の支払い、明細書送付を含む諸経費支払い手続き
- 32) 講師への旅費及び交通費の支払い（契約交渉の結果によっては、講師以外の移動の手配、支払等を含むこともあります）
- 33) 業務完了報告書作成、経費精算報告書作成
- 34) 関係機関への礼状の準備・発信、資材資料返却
- 35) 講義、見学の評価
- 36) 反省会への出席
- 37) 必要に応じて上記をオンラインで実施するための準備、実施、運営管理

3. 留意事項

- (1) 当機構は、本研修コース実施にあたって英語－日本語の逐次通訳等を行う研修監理員を 2 名配置予定です。研修監理員は、JICA が実施する研修員受入事業において、JICA、研修員及び研修実施機関の三者の間に立ち、当該言語を使用しつつ（逐次通訳）、研修員の研理解を促進し、研修効果を高め、研修進捗状況を現場で確認する等、研修コースでの現場調整を行う人材です。JICA は登録された研修監理員の中から、研修コースごとに研修コースの特性等を勘案し、諸条件を提示して個別に業務を発注します（委任契約）。
- (2) 研修員及び同行者（上限 1 名）の研修旅行にかかる国内移動・宿泊につい

ては、当機構が別途委託している旅行会社が手配を行います。

(3) 本業務概要は予定段階のものであるため、詳細については変更となる可能性があります。

(4) 研修員受入事業及び研修委託契約の概要を含む研修委託契約の各種ガイドライン、契約書等については、以下 JICA HP を参照願います。

https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/guideline.html

以 上

参加意思確認書

年 月 日

独立行政法人 国際協力機構
横浜センター 契約担当役
所長 大野 裕枝 殿

提出者 (所在地)
(貴社名)
(代表者役職氏名)

「2025-2027 年度課題別研修「港湾開発・計画（港湾技術者のための）」にかかる参加意思確認公募について」における応募要件を満たしており、業務への参加を希望しますので参加意思確認書を提出します。

記

1 組織概要

2 応募要件

(1) 基本的要件：

令和 05 年、06 年、07 年度全省庁統一資格審査結果通知書(写し)を添付してください。

(2) その他の要件：

特定の資格、認証等が指定されている場合には、当該資格、認証等の取得状況が分かる証明書を提出してください。

その他組織概要等のわかるパンフレット等を添付してください。

以 上